

硬式野球部の全国大会をパブリックビューイングで応援！

今朝の気温は18度でした。最高気温は31度。とても蒸し暑く感じました。私は梅雨という時期が嫌いで、これから”不快な梅雨”が本格化するのかと思うと、残念な気分になりました。しかし、日本には季節(四季)がある事が素晴らしいことでもあるので、嫌な梅雨を受け入れる覚悟をしました。

少し前の話になりますが、5月27日(土曜日)、私は豊田市運動公園野球場に居ました。硬式野球部の応援です。愛知大学野球春季リーグ戦の最終カード、名城大学戦(一戦目)でした。今季リーグを球場で応援するのは4回目です。でもこの日は特別な気持ちで応援していました。この日勝てば中部大学が愛知大学野球春季リーグの頂点に立つからです。試合は7-3で中部大学が勝ちました。この勝利により、今季のリーグ戦の優勝が決まり、同時に第66回全日本大学野球選手権大会の出場が決まりました。春季リーグ戦では9年ぶりの紙テープが舞うグラウンドは、感慨深いものでした。第66回全日本大学野球選手権大会は、全国26連盟の春季リーグ戦を勝ち抜いた27の代表校が、神宮球場と東京ドームを舞台に大学野球日本一を争うものです。

優勝が決まり、commonsサポーターも慌ただしく動き始めました。commonsサポーターとして、自分たちは何をすべきか。また、何ができるのか。話し合った結果、全日本大学野球選手権大会のパブリックビューイングを開催することを決めました。不言実行館の1階に応援寄せ書きブースを準備し、さらに、選手の取材をして、紹介動画を制作することになりました。この時の勢いがとても早く、commonsサポーターのエネルギーをあらためて認識する事ができました。今回の企画は、commonsセンターだけの力では実現させる事が難しい点多々ありましたが、関係部署の皆様が直接的・間接的にご協力いただいたおかげだと感じています。この場をお借りして、御礼申し上げます。

硬式野球部応援企画を担当したcommonsサポーターは奔走しました。commonsセンター事務室の担当課員への報告・連絡・相談を繰り返し、サポーター学生主体で全ての企画を成功に導いてくれました。パブリックビューイングの様子は、イベントレポートや中部大学Facebookで紹介されていますので、そちらをご覧ください。硬式野球部の主将で全日本大学野球選手権大会の選手宣誓を行った瀬戸太朗選手(国際関係学部4年)が、commonsサポーターの硬式野球部応援企画に対して、直接お礼を述べて来てくれました。その中で、“試合前日の夜、宿舎で動画をみんなで観た”、“応援が力になった”と語ってくれたそうです。このことは、短期間で大きな企画を成し遂げたcommonsサポーター達にとって、充実感が満ちたと思います。この充実感を次へのエネルギーにして欲しいと思っています。

大学スポーツに関わる学生が多くいます。中部大学でも、様々な競技で活躍する学生がいます。そんな学生を最大限応援する事が、私にできる唯一のことだと思っています。一生懸命とその成果に対して、評価と支援(応援)をいつも心がけています。

そんな中、今回の硬式野球部の活躍を通して、もう一つの面から応援を考える必要があるのでは無いかとも思いました。それが、競技における文化の違いです。野球なら野球、陸上競技なら陸上競技の文化があります。その競技における文化に合わせた応援・支援を考える事も、選手にとって一層の励みになると感じました。それを感じたエピソードを紹介します。今回の全日本大学野球選手権大会で優勝したのは、立教大学です。東京六大学野球春季リーグ戦を1999年秋季リーグ戦以来35年ぶりに制しての出場でした。決勝戦には、立教大学のOBである長嶋茂雄氏(読売巨人軍終身名誉監督)が応援に神宮球場に訪れるほどのことです。優勝した立教大学は、大学のある東京都豊島区のJR池袋駅から立教大学池袋キャンパスまでの約1キロの沿道を優勝報告パレードしており、新聞報道によると、約5000人の同大関係者やファンが駆けつけ、祝福したとのこと。このことから、様々な大学スポーツがある中で、大学野球の社会における位置を再確認し、考えました。中部大学硬式野球部が全国優勝した際、どこをパレードするのか？どれだけの人が駆けつけるのか？地域社会における大学のあり方までもが問われそうで、今後の課題だと私は認識しました。また、競技の歴史や競技人口に関係があるのだと想像もできました。もちろん、各大学の特色にも関連するだろうと思います。さらに、今回この考えに答えを出す事が簡単では無い事も認識しました。

硬式野球部に限らず、commonsセンターでは部活応援を行っています。各クラブ・サークルの代表者がcommonsセンターのサポーターに、「今度、試合があるので応援に来て欲しい」や「演奏会があるから来て欲しい」など、伝えてくれればサポーターがどのように応援するかを相談して、大型モニター(サインージ)で案内します。是非、情報をお寄せください。

最後に、本日は関係者による「優勝祝賀会・全日本大学野球選手権大会出場報告会」が開催されたと、硬式野球部の行本部長(機械工学科教授)からお聞きしました。選手たちは誇らしげな顔をしていたのだらうと想像しています。行本先生から会場の写メが数枚送られて来て、選手の笑顔を嬉しく思いました。いつも球場で真剣な顔をしている選手たちが、セレモニーでどんな顔を見せるのか、少し見てみたいなあと思いつつ、このメッセージを書きました。

commonsセンター長 伊藤 守弘



全日本の1回戦で勝った瞬間の様子。



撮影前に打合せをする野球部員とサポーター。



野球部へ寄せ書き(応援メッセージ)をプレゼントしました。



サポーターが作成したポスターと野球部のユニフォーム展示



野球部の瀬織キャプテンがお礼に来てくれました。